周　回　遅　れ

W杯最終調整の対イングランド2戦とトライネイションズ2003の3戦のビデオを一挙に見ました。W杯でのジャパンの健闘を祈りながら、勝敗だけでなく、スタープレーヤーを後追いするだけでなく、いろいろな場面における各プレーヤーの動きと試合の流れをたどってみて、総括的に感じたことを集約してみたいと思います。それは「サイズではなくタフ」という前回のW杯の反省を生かすことになり、多くのラグビー愛好家が、W杯を楽しむ観戦のポイントになると同時に、将来の日本ラグビー飛躍への課題に対する回答でもあると思います。

まず、日本代表の皆さんにご苦労さんと言いたい。体格的にも外国人にそれほど見劣りしなくなりました。フィットネスも計画通りなされていると聞いています。大きなプレッシャーのもとでよく頑張っていると思います。悲壮感さえ感じ気の毒に思っています。「伸び伸び」といっても無理でしょうが、只只健闘を期待します。

さて、日本代表の戦っている様子と、メジャーのテストマッチやトライネイションズの試合の様子とを比べて、率直にいって「周回遅れ」という言葉が思い浮かびました。中長距離のトラック競技で、トップと周回遅れのランナーが並走する場面をみることがあります。その時の印象に似たものを感じました。

確かにどの試合も、ラグビー以外の何物でもありません。強い弱いと少しの差はあっても同じようなラグビーです。日本もミスマッチと言われるような惨敗をしたわけではありませんが、よく見るとやはり違うのです。日本の敗因としてミスが取り上げられていますが、ミスもゲームの内と言われるように、10分の1秒単位の余裕の有無がミスパスやキャッチを生み、scanning のちょっとした誤差が判断ミスとなるのです。それも平素 flair を生かしたプレーに慣れていないプレーヤーにとっては責められないことです。

タックルの成否も、相手ボールキャリヤーおよびサポーターの動きによって決まるもので、タックラーを責めるだけでは解決しません。一つ一つ正確を期す努力は重要ではありますが、根本的な大問題ではないのです。ラグビーが running handling game であり、その方向へ年々進化しつつあるという認識が不足しており、現代ラグビーの特徴である「継続によるスピード」のレベルとそれらについての意識に周回遅れと言わざるを得ない程の差があるということが大問題なのです。周回遅れの者同志で競争をしても、井の中の蛙の諺のように、大海に出ればより強い相手に翻弄されてしまうのは当然のことです。

このように率直に言っても共感できない人もいることでしょう。逆に、ラグビーの変遷を綿密に辿っている人以外は当然とも言えるでしょう。そこで、簡潔に遅れの原因と取り戻す方策から問題に迫ることから始めたいと思います。

「現代ラグビー」を理解することが第一です。メジャーのプレーを真似ているだけではだめです。彼等が考えていることを理解して、その一歩先を行くことが大切です。例えば、高校代表チームが遠征して良い成績をあげても、それが日本のラグビー発達にそれほど役立たないのは、高校時代のプレーについての考え方が違うからです。伸び伸びと running handling game を楽しませるチームと、必死でガムシャラに勝つことを目指すチームとでは、ラグビーの中身が違い、その違いから日本高校が良い成績であるのは当然のことです。高校大学そして代表と、尻上がりにぐんぐん伸びていくのと、大学や代表で右肩上がりが止まってしまうのとの違いです。伸び盛りのプレーヤーにとって必要なのは、よい土壌の畑なのです。現代ラグビーの進化の過程と、方向性を認識し、知恵として志向することが第一です。

第二はルールを正しく守ることです。それにはルールを正しく理解し体得して、ルールの志向するものを具現することです。ルールを正しく守っていないため、「日本にないプレー」があるのです。それらを導入し、プレーが継続すれば、更なる継続が達成されて、スピーディなゲームを楽しむことができるようになるのです。flair を生かしたプレーがなされることによって、un-formula なゲームに強くなり、走り回ることによって運動量が増え、結果的にタフになり、タフなゲームができるのです。

初心者には、第7条の話をし、危険なことが起こらないか注意するだけでよいでしょう。

ラグビーのパスの仕方を教える必要はないのです。試合形式になってきたところで第15条を説明すれば running handling game の楽しみ方を理解し、さらに16,17条を説明し、ラック／モールを前進が失敗したプレーとして復習する習慣を身につけたならばラグビーが面白くてたまらなくなり、意欲的になるものです。タックルをされないための wisely kick やドリブルも思いつくものです。ベテランといえども、ラグビーが進化しているのにプレーヤーが元のままではちぐはぐになります。それに気付いて本気になれば短期間に修正できると思います。

2003.08.23
西川　義行